

教育に関するアンケート 結果報告書

目 次

はじめに	1頁
調査の概要と回答者のプロフィール	2頁
家庭教育について	3頁
学校における人間性の形成について	10頁
自由記述回答	15頁

2003年10月

財団法人 経済広報センター

はじめに

経済広報センターは広く社会の声を聞くため、全国のさまざまな職種、世代で構成される「社会広聴ネットワーク」を組織しております。現在、会員数は約4500名に上り、毎年4～5回、経済・社会問題など折々のテーマで実施しているアンケート調査に協力いただいております。

今回は「教育」をテーマに、アンケート調査を実施しました。調査結果から、子供たちを取り巻く環境が大きく変化しつつも、親子の接触や家庭でのしつけなど、家庭や学校、地域がそれぞれ果たすべき役割は依然として重要であることが再確認されました。また、家庭教育のあり方、ゆとり教育、少年犯罪、学力低下、学校や先生に対する期待と不信など、実に多くの意見が寄せられました。これらの意見はみな回答者それぞれの実体験に基づくもので、教育問題に対する回答者の真剣な思いが伝わってまいりました。

今回の「教育に関するアンケート」が、教育や青少年問題などを考えるにあたって参考になれば幸いです。

財団法人 経済広報センター
常務理事・事務局長
田代 正美

【1】調査の概要と回答者のプロフィール

調査の概要

- (1) 調査名称 : 「教育に関するアンケート」
- (2) 調査対象 : 財団法人 経済広報センターに登録している社会広聴会員4,614名
- (3) 調査方法 : 郵送またはインターネットによる回答選択方式および自由記述方式
- (4) 調査期間 : 2003年8月8日～8月27日
- (5) 有効回答 : 3,591名(77.8%)

回答者のプロフィール

* 小数点第2位を四捨五入したため、合計が100%とならない場合もある。

性別

単位: 上段/人 下段/%

合計	男性	女性	無回答
3,591	1,406	2,182	3
100	39.2	60.8	0.1

年齢層

	20歳代以下・ 30歳代	40歳代・ 50歳代	60歳代以上	無回答
全体	871 24.3	1,775 49.4	940 26.2	5 0.1

職業

会社員 (団体職員含む)	1,346 37.5	会社員以外	2,238 62.3		
会社員	1,107 30.8	公務員	101 2.8	無職	392 10.9
会社役員	108 3.0	自営業	139 3.9	専業主婦(夫)	787 21.9
団体職員	89 2.5	自由業	114 3.2	学生	45 1.3
団体役員	42 1.2	パートタイム・ アルバイト	511 14.2	その他	149 4.1
職業無回答	7 0.2				

【2】 「家庭教育について」

(1) 家庭で規則を教え、子供とスキンシップをとっているか

75.4%が減っていると回答

家庭でルールを教えたり、親とスキンシップをとる機会について自身の子供の時との比較についてたずねた。

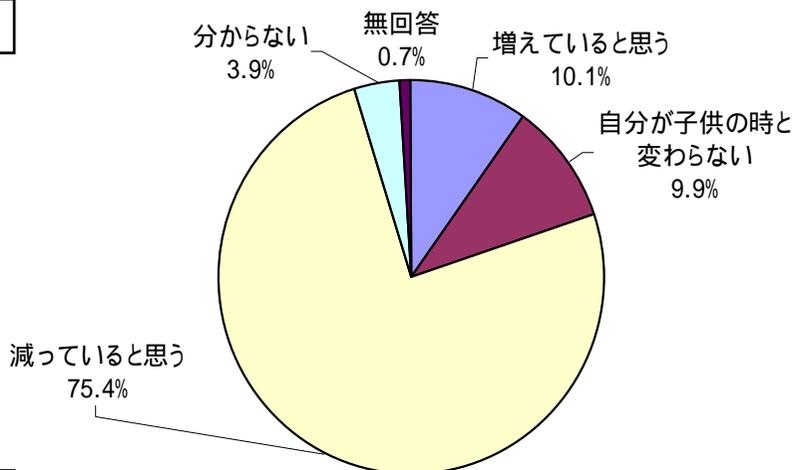
全体の75.4%が「減っていると思う」と回答。「増えていると思う」との回答はわずか10.1%であった。

世代別の「減っていると思う」との回答は、20歳代以下が82.8%でトップ。以下、60歳代以上は81.3%、50歳代は77.1%と、いずれの世代でも低下を指摘する声が多かった。

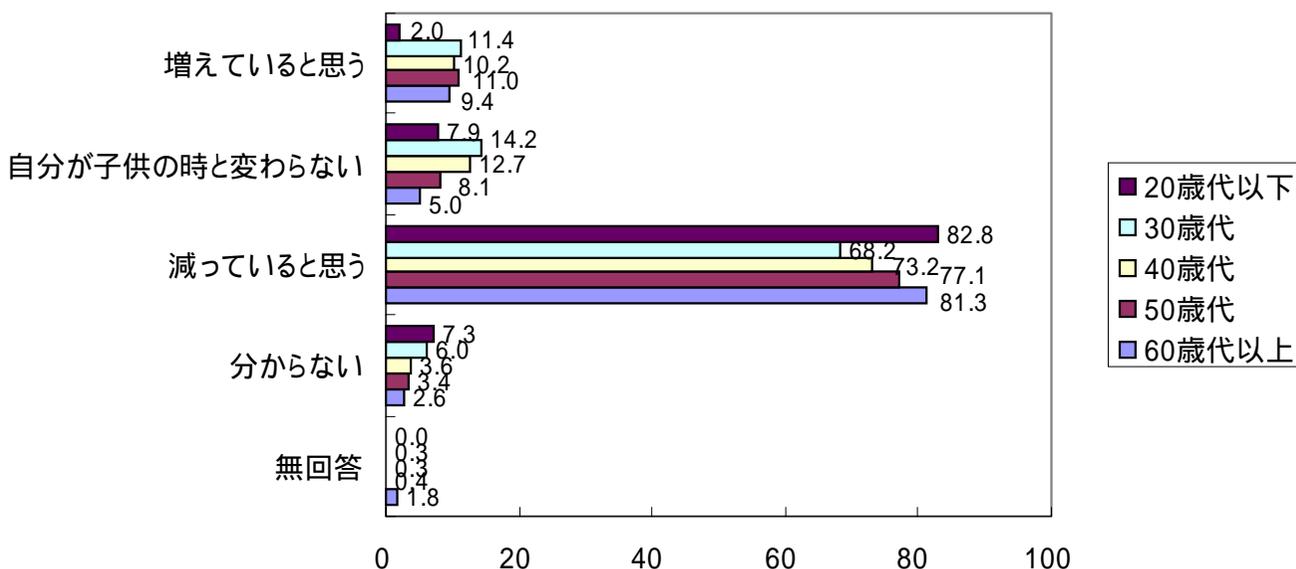
【全員に質問(有効回答数:3591名)】

(1)ご自身の子供の時と比較して、家庭でルールや規則を教えたり、親とスキンシップをとる機会は、現在、社会全体でどう変化していると感じますか。以下の中から1つだけ選んで回答欄に記入してください。

全体



世代別比較



【2】「家庭教育について」

(2) 小学校入学前にルールや規則を教えることができたか

40歳代が最も高く84.1%が「教えることができた」と回答

小学校入学前までのルールや規則の教育についてたずねた。

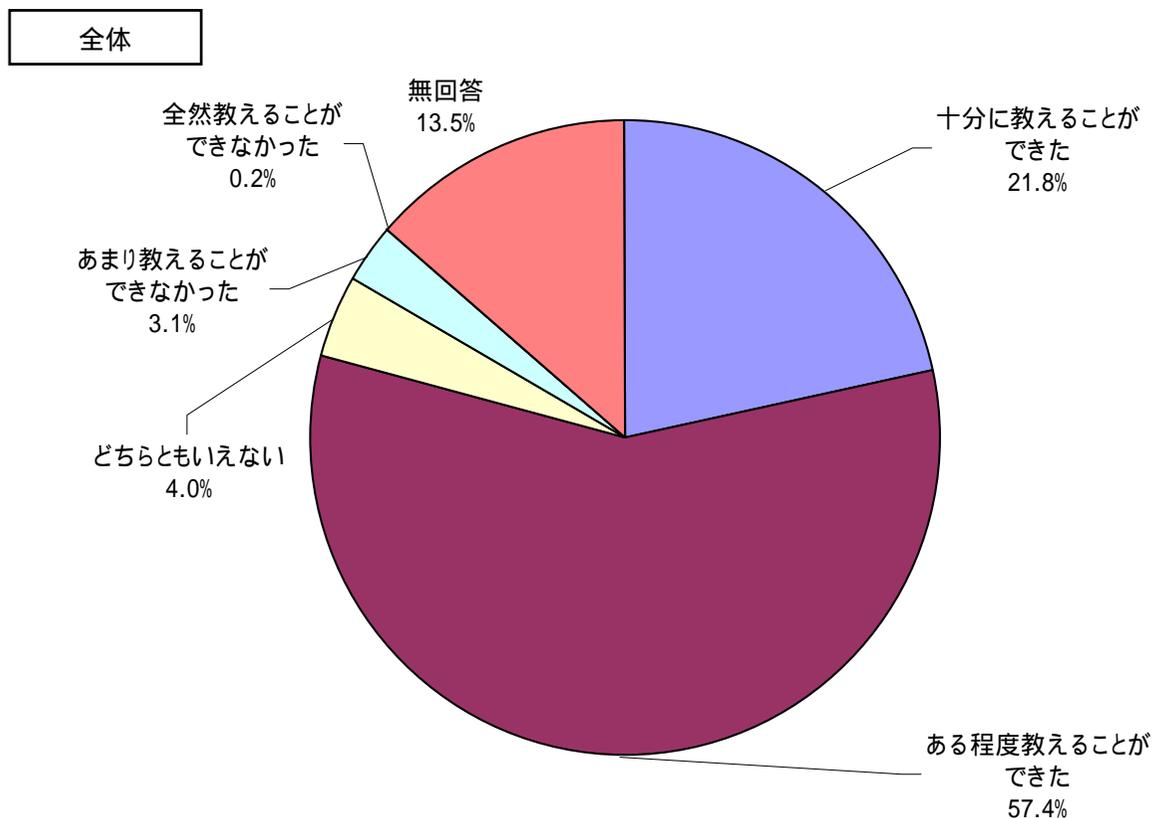
「教えることができた」(十分に教えることができた+ある程度教えることができた)との回答は、全体の79.2%であった。

「教えることができた」(十分に教えることができた+ある程度教えることができた)の世代別回答で最も高かったのは、40歳代の84.1%。一方、最も低かったのは60歳代の71.4%であった。

「十分に教えることができた」と最も多く回答したのは50歳代の25.3%。40歳代、60歳代においても20%以上が「十分に教えることができた」と回答。

[小学生以上のお子さんをお持ちの方に質問(有効回答数:1661名)]

(2)小学校入学前(0～6歳)までに、お子さんに対して「電車など公共の場で騒がない」、「使ったものはもとの場所に戻す」といった、社会生活上必要なルールや規則を教えることができましたか。以下の中から1つだけ選んで回答欄に記入してください。

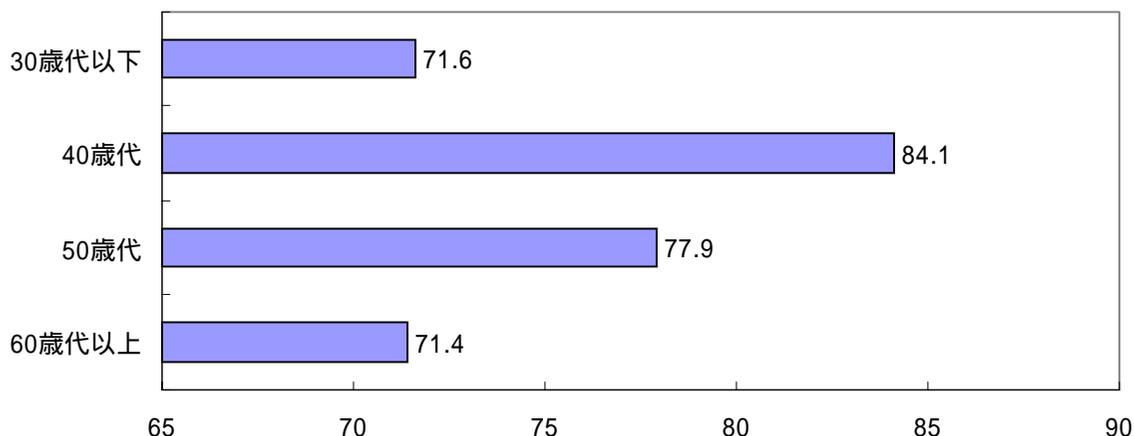


【2】「家庭教育について」

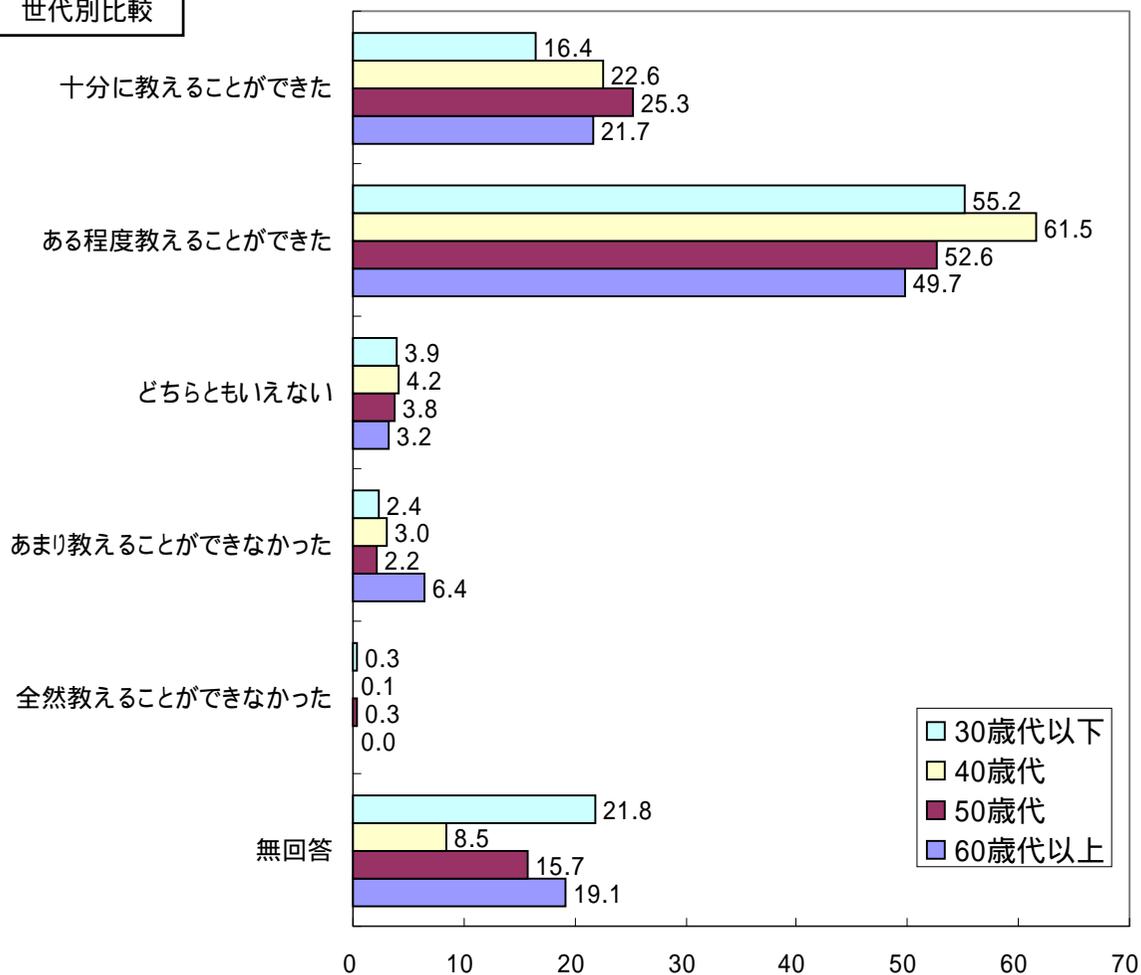
(2) 小学校入学前にルールや規則を教えているか

世代別比較

「教えることができた」世代別比較



世代別比較



【2】「家庭教育について」

(3) 小学校入学前のスキンシップ

男女で「十分にとることができた」に11.6ポイントの差

小学校入学前までのお子さんとのスキンシップについてたずねた。

「ある程度とることができた」という回答は全体の48.3%。「十分にとることができた」との回答は全体の34.1%で、全体の82.4%が「とることができた」と回答している。

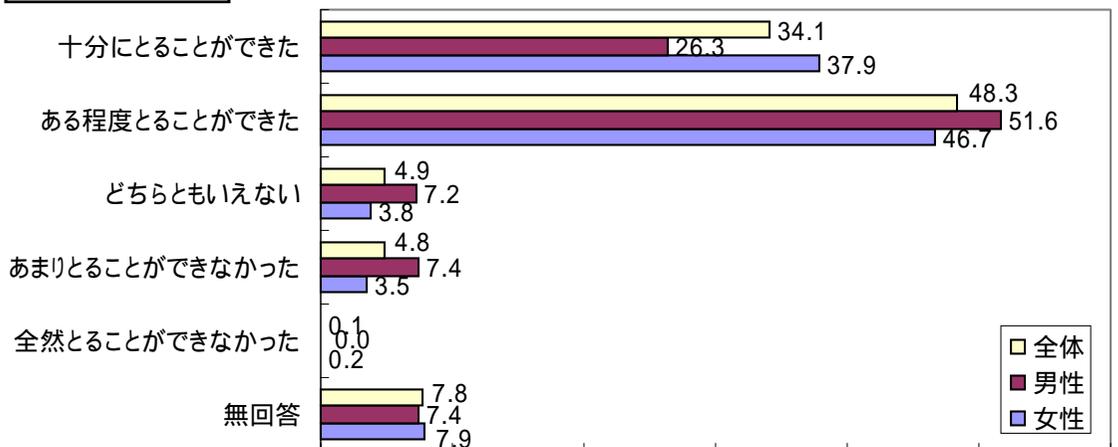
性別では、「十分にとることができた」と回答した女性が37.9%であったのに対し、男性は26.3%であった。男女で11.6ポイントの差があった。

世代別では50歳代の40.4%、40歳代の38.2%が「十分にとることができた」と回答した。現在子育て中であろうと想定される30歳代以下は23.9%であり、40歳代に比べ約15ポイント低下している。

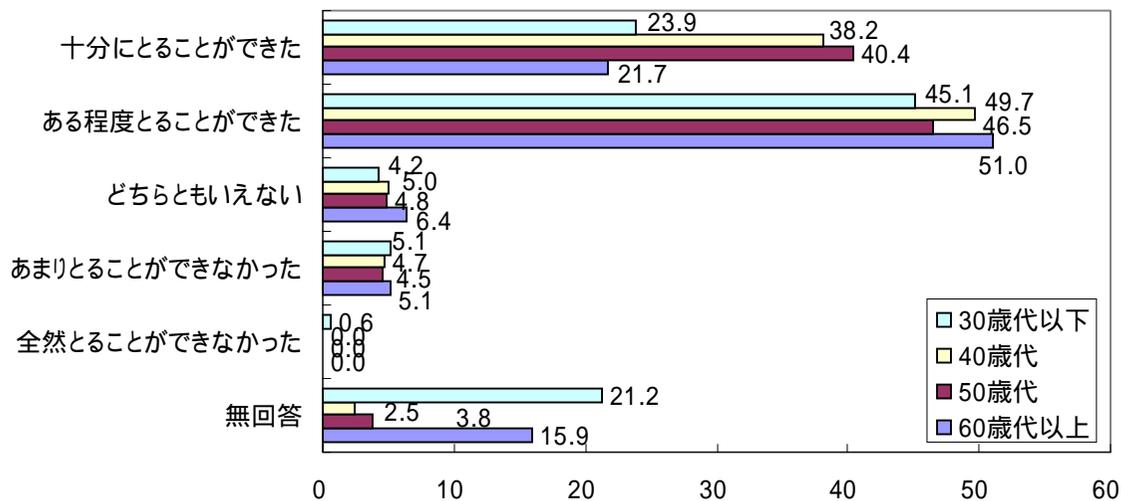
[小学生のお子さんをお持ちの方に質問(有効回答数:1661名)]

(3)小学校入学前(0～6歳)までに、お子さんとスキンシップをとることができましたか。以下の中から1つだけ選んで回答欄に記入してください。

全体・性別比較



世代別比較



【2】「家庭教育について」

(4) どんなスキンシップを心がけたか

世代でスキンシップの内容に大きな特徴

心がけたスキンシップの内容についてたずねた。

「毎日、必ず会話をする」が50.8%でトップ。次いで「食事を一緒にする」(46.8%)、「毎晩、本を読んであげる」(32.0%)と続く。

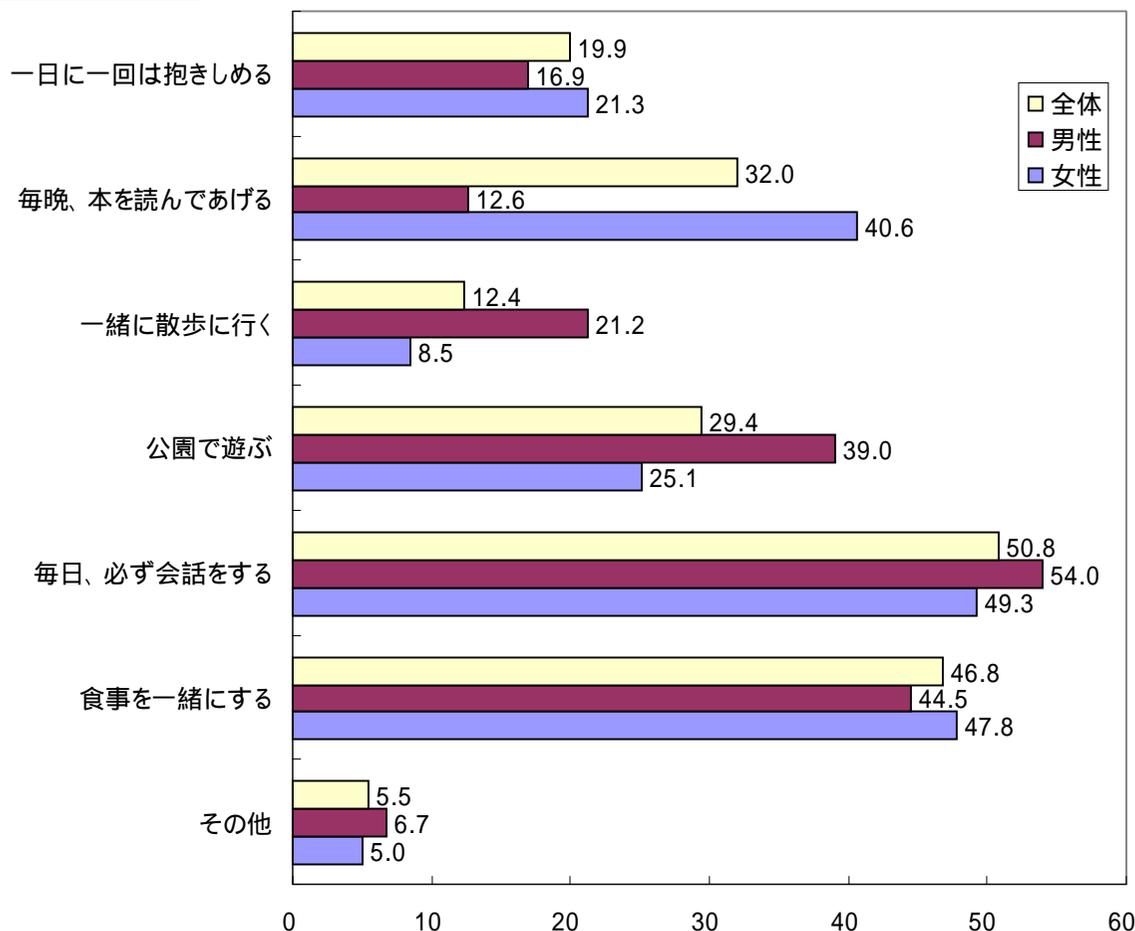
男女では、「毎日、必ず会話をする」と「食事を一緒にする」がともに上位2位を占めているが、男性では3番目に「公園で遊ぶ」(39.0%)、女性では「毎晩、本を読んであげる」(40.6%)が入り、それぞれの特徴が表れている。

世代別にもスキンシップの特徴が良く表れた。「一日に一回は、抱きしめる」と回答した30歳代以下は31.2%であったのに対し、60歳代以上は7.0%であり、24.2ポイントの開きであった。また、「食事を一緒にする」と回答した30歳代以下は37.7%であったのに対し、60歳代以上は58.8%と21.1ポイントの差があった。

【問(3)で「十分にとることができた」「ある程度とることができた」と回答した方に質問(有効回答数:1369名)

(4)主にどのようなスキンシップを心がけて取り組みましたか。以下の中から2つまで選んで回答欄に記入してください。

全体・性別比較

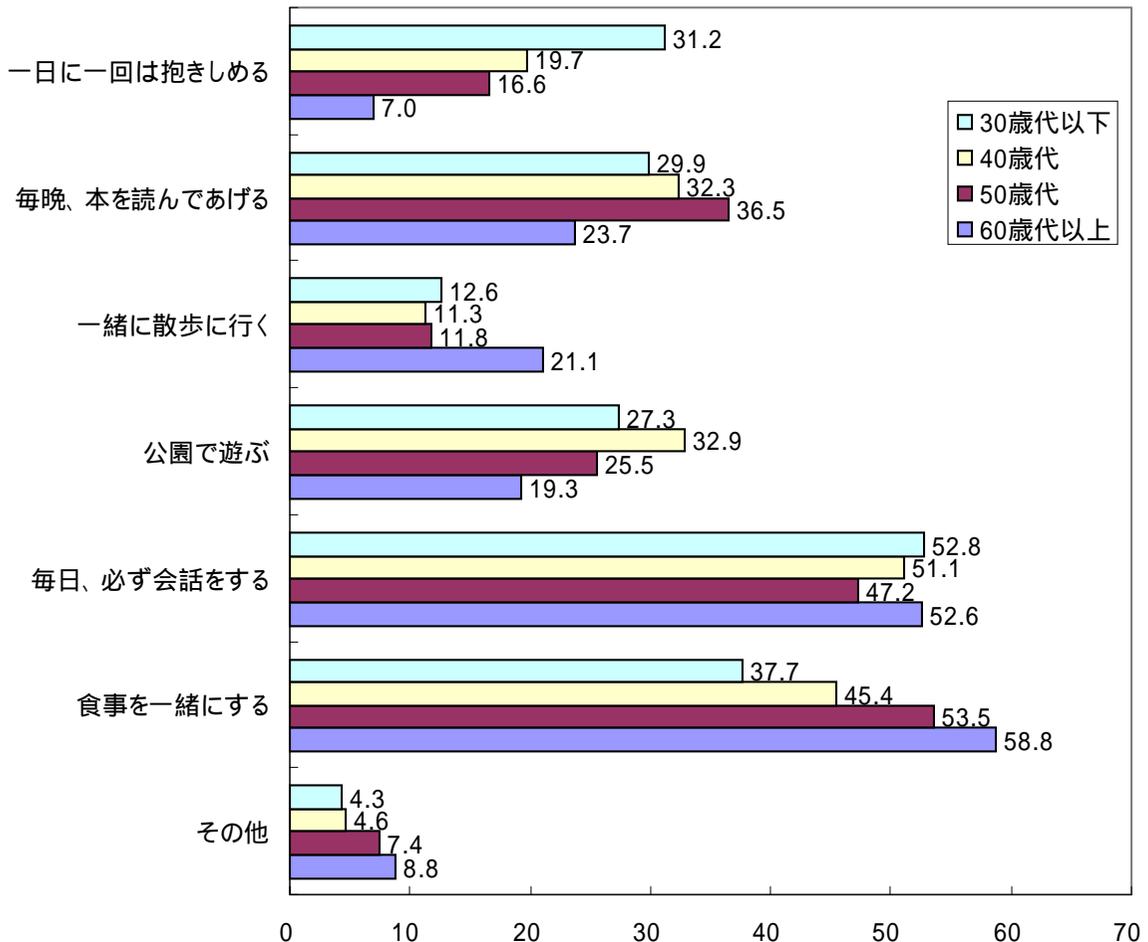


【2】「家庭教育について」

(4) どんなスキンシップを心がけたか

世代別比較 / 自由記述

世代別比較



その他の具体的内容

どこにでも連れ歩き、実体験を積ませた。

毎日、子供が学校から帰る時間に家にいて、「おかえり」と言う。

「あなたが大事」としっかり伝える。

寝るときに「大好きよ」とほっぺにキスをした。

手紙のやり取りをしていた。

毎晩、子守唄を歌いながら寝付くまで側にいた。

毎日、一緒にお風呂に入った。

家族での日帰り旅行に出かけるように努めた。

どんなに忙しくても、また二日酔いのときでも、朝食だけは家族全員で食べるようにしていた。

子供と約束したことは必ず守った。

子供が小さいときの転勤は、必ず帯同した。

幼児期より料理を一緒に作って手伝わせた。

【2】「家庭教育について」

(5) 実践できなかったスキンシップ

男性は「食事を一緒にする」、女性は「一日に一回は抱きしめる」

実践することができなかったスキンシップについてたずねた。

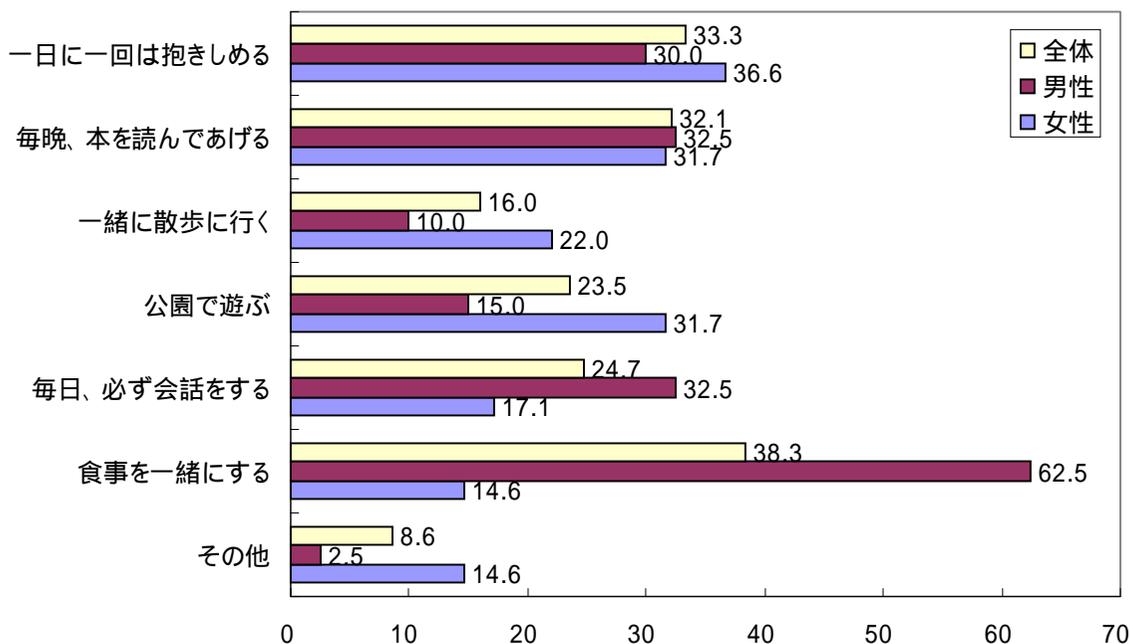
「食事を一緒にする」が38.3%でトップ。「一日に一回は抱きしめる」(33.3%)、「毎晩、本を読んであげる」(32.1%)と続く。

男女別では、「食事を一緒にする」が男性のトップ(62.5%)。女性のトップは「一日に一回は抱きしめる」(36.6%)だった。

[問(3)で「あまりとることができなかった」「全然とることができなかった」回答した方に質問(有効回答数:81名)]

(5)主にどのようなスキンシップをとることができていませんでしたか。以下の中から2つまで選んで回答欄に記入してください。

全体・性別比較



その他の具体的内容

フルタイムで働いていたので、全体的に時間がなかった。

子供がいうことを聞かないので、一方的に怒ってしまうことがあった。

接している絶対時間が少なかった。

一緒に住んでいなかった。

自分の気分で子供に接してしまっていた。

【3】 「学校における人間性の形成について」

(6) 学校は「他人を思いやる心」などを身につける場として機能しているか 「機能している」と全体の47%が回答

学校が「他人を思いやる心」などを学ぶ場として機能しているかについてたずねた。

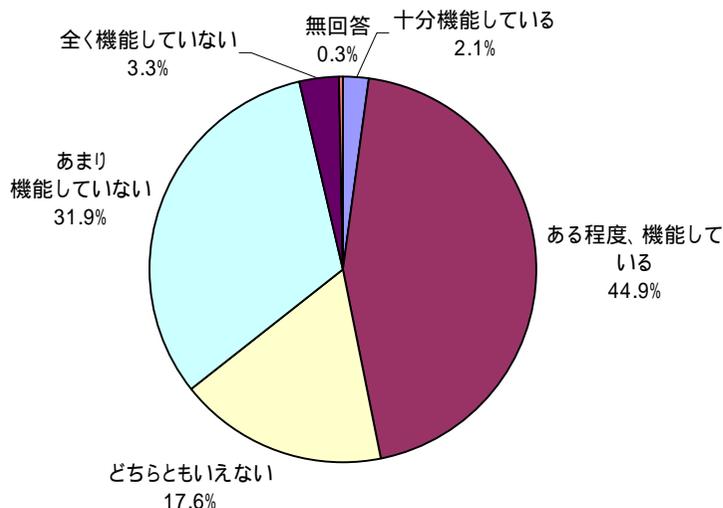
「機能している」(十分機能している + ある程度機能している)との回答は47%であり、「機能していない」(あまり機能していない + 全く機能していない)の35.2%を11.8ポイント上回った。

世代別では50歳代、60歳代以上と世代が高くなるほど「ある程度機能している」との回答は低くなり、「あまり機能していない」の回答が高くなった。60歳代以上では、「あまり機能していない」が「ある程度機能している」を8.5ポイント上回った。

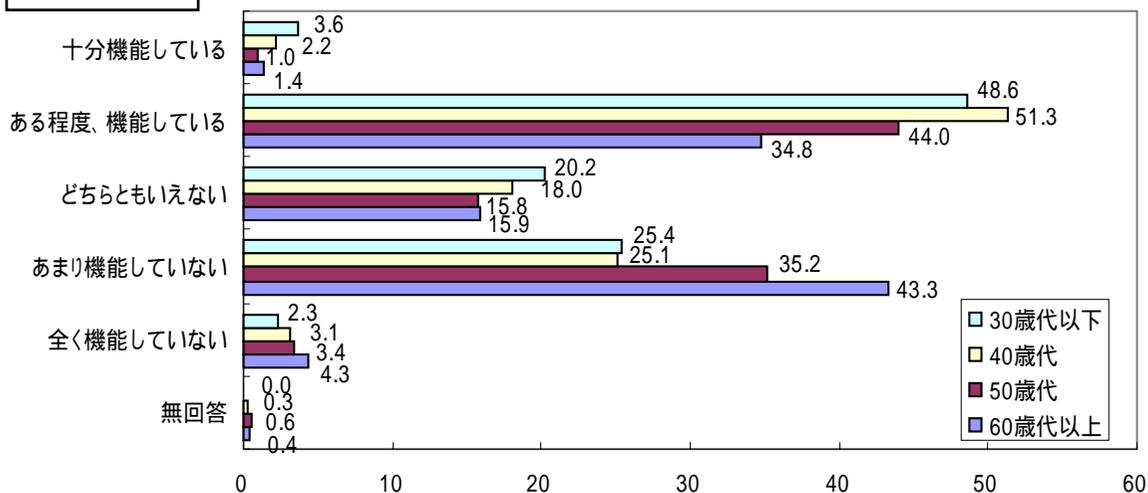
【全員に質問(有効回答数:3591名)】

(6) 学校は、人が社会で生活する上で身につけておくべき「チームワーク」や「他人を思いやる心」などを学ぶ場として機能していると思いますか。以下の中から1つだけ選んで回答欄に記入してください。

全体



世代別比較



【3】 「学校における人間性の形成について」

(7) 「他人を思いやる心」を形成する場

30歳代以下と40歳代は「学校」、50歳代と60歳代以上は「家庭」を重視

学校が「他人を思いやる心」などを学ぶ場として「機能していない」とした場合、主にどこがその役割を果たすべきかをたずねた。

「家庭」が44%で第1位、次いで「学校」(31.2%)、「地域のコミュニティー」(13.9%)と続く。

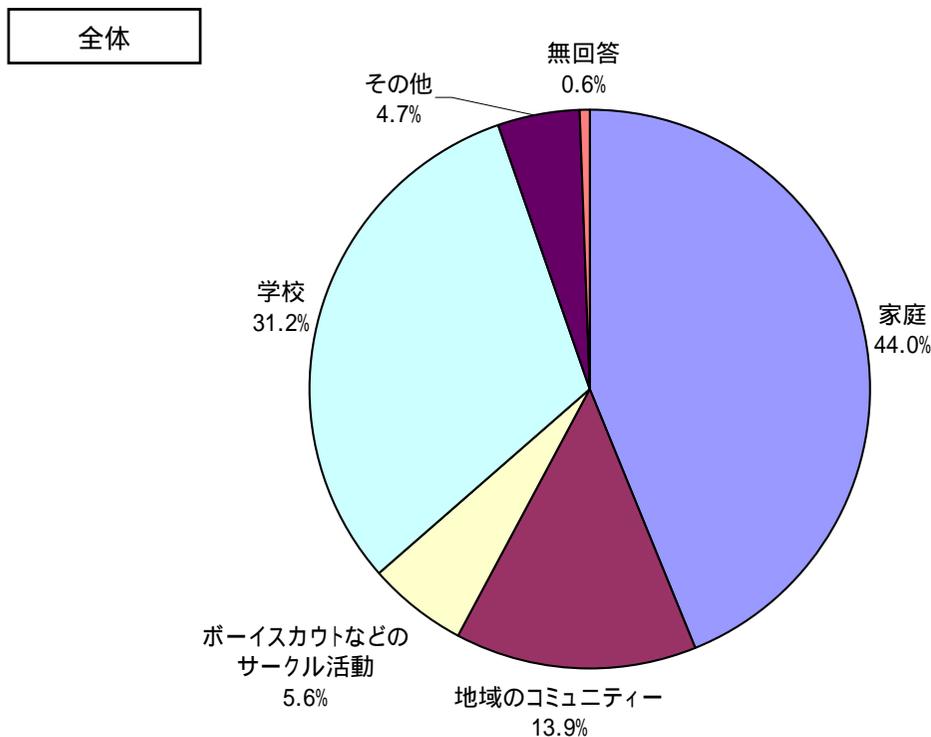
前問で学校が「他人を思いやる心」を形成する場として機能していないと回答したにもかかわらず、なおも「学校」に期待するという回答が30%を超えた。

世代別では、30歳代以下と40歳代は「学校」が「家庭」を上回っているが、50歳代と60歳代以上では「家庭」が「学校」を上回る結果となった。

就学者の有無では、就学者ありの回答は「家庭」と「学校」ではそれほど差が出なかったが、就学者なしは「家庭」が「学校」より重要と考えるほうが、24.3ポイント多かった。

【問(6)で「あまり機能していない」「全く機能していない」と回答した方に質問(有効回答数:1261名)】

(7)上記質問における「チームワーク」や「人との距離感」を形成するにあたって、主にどこがその役割を果たすべきだと思いますか。以下の中から1つだけ選んで回答欄に記入してください。

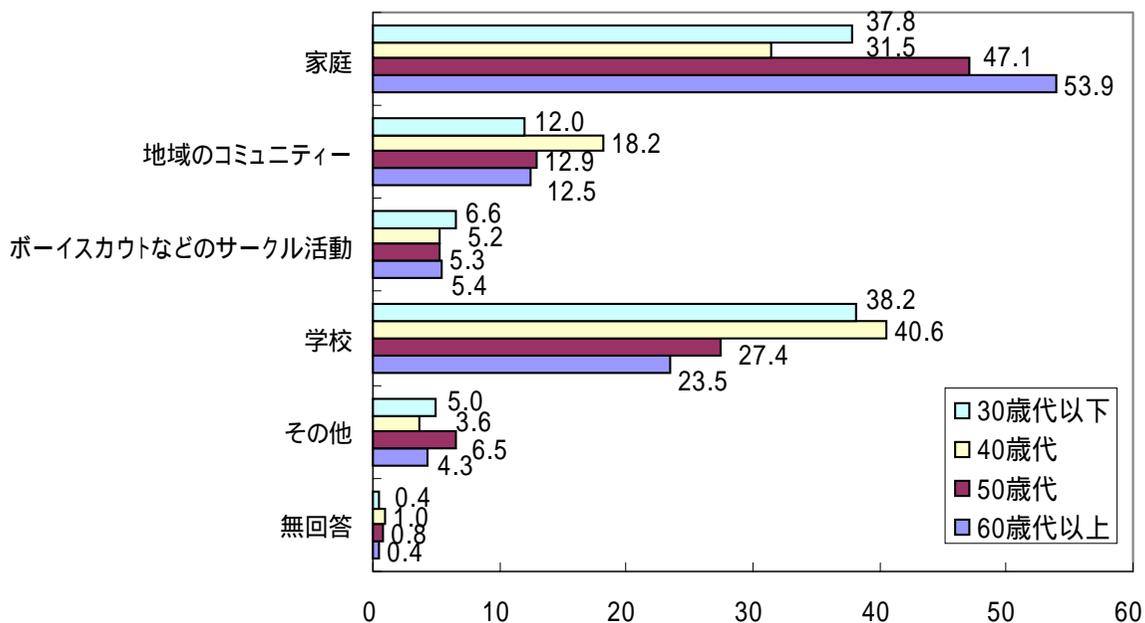


【3】 「学校における人間性の形成について」

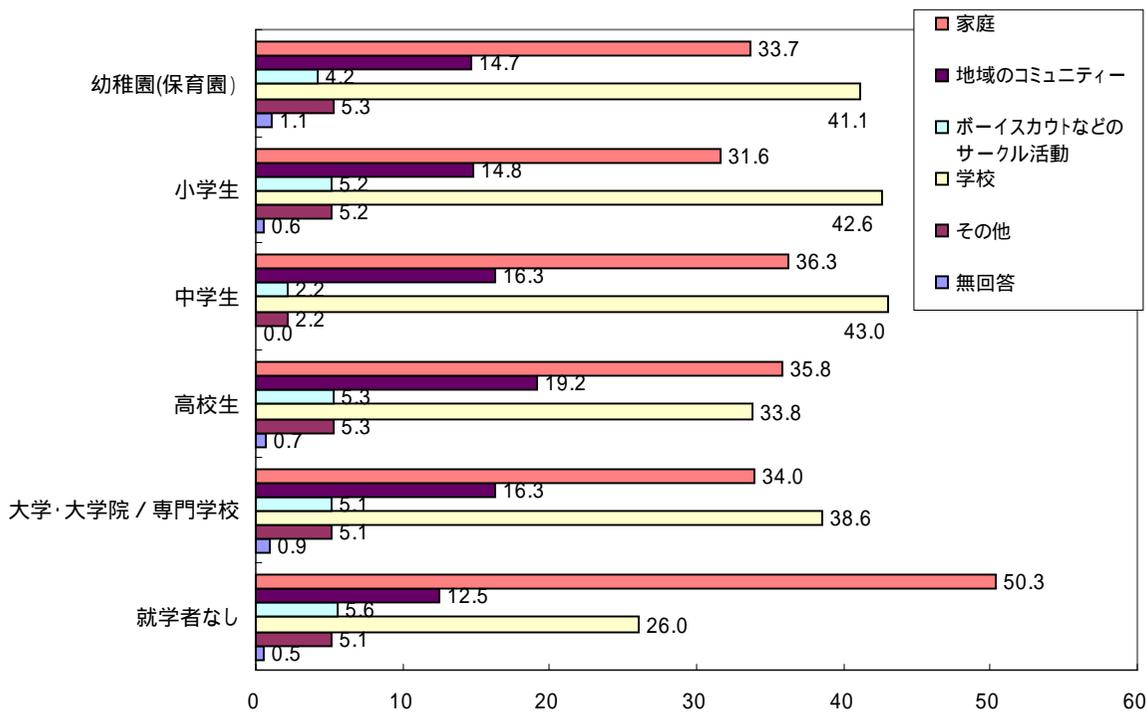
(7) 「他人を思いやる心」を形成する場

世代別・就学の有無による比較

世代別比較



就学の有無による比較



【3】 「学校における人間性の形成について」

(8) 人間性の形成における「ゆとり教育」の役割

43.3%が「あまり役立っていると思わない」と回答

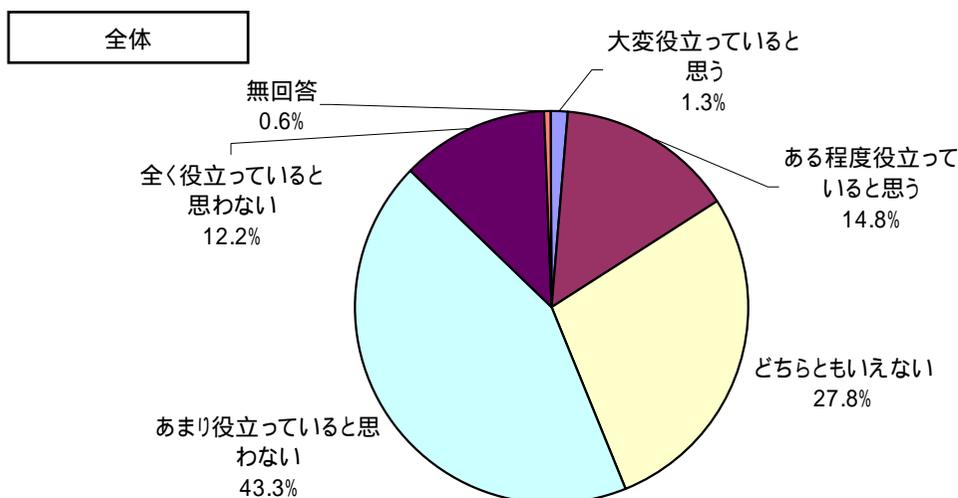
「ゆとり教育」が人間性の形成に役立っていると思うかたずねた。

全体の43.3%が「あまり役立っていると思わない」と回答した。

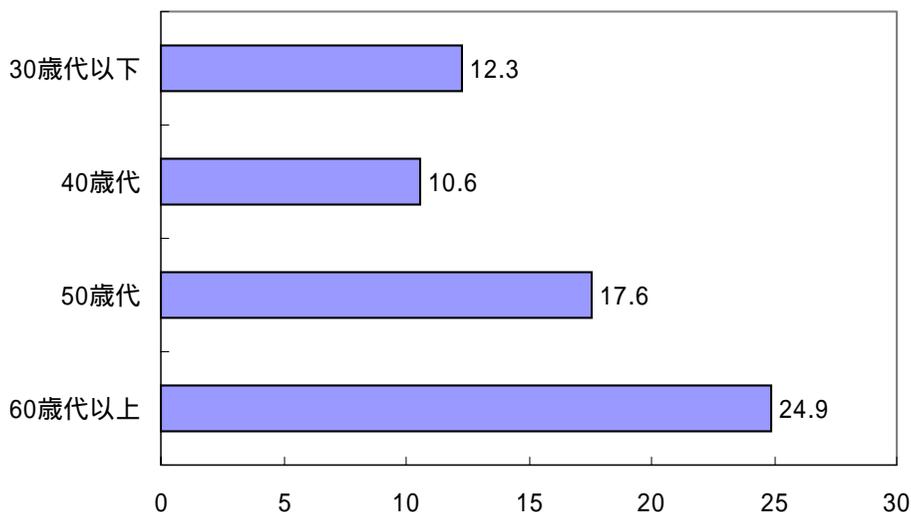
「役立っていると思う」(大変役立っている+ある程度役立っている)の割合は、50歳代で17.6%、60歳代以上で24.9%であるのに対し、30歳代以下では12.3%、40歳代では10.6%と評価が低かった。

【全員に質問(有効回答数:3591名)】

(8) 2002年度から「ゆとり教育」がスタートし、授業内容が3割削減されました。削減した時間を通して、社会・文化活動に多く触れてもらい、豊かな人間性や社会性を育むことが目的の一つとなっています。この「ゆとり教育」は、人間性の形成に役立っていると思いますか。以下の中から1つだけ選んで回答欄に記入してください。



「役立っていると思う」世代別比較



【3】 「学校における人間性の形成について」

(9) 人間性の形成のために強化すべきこと

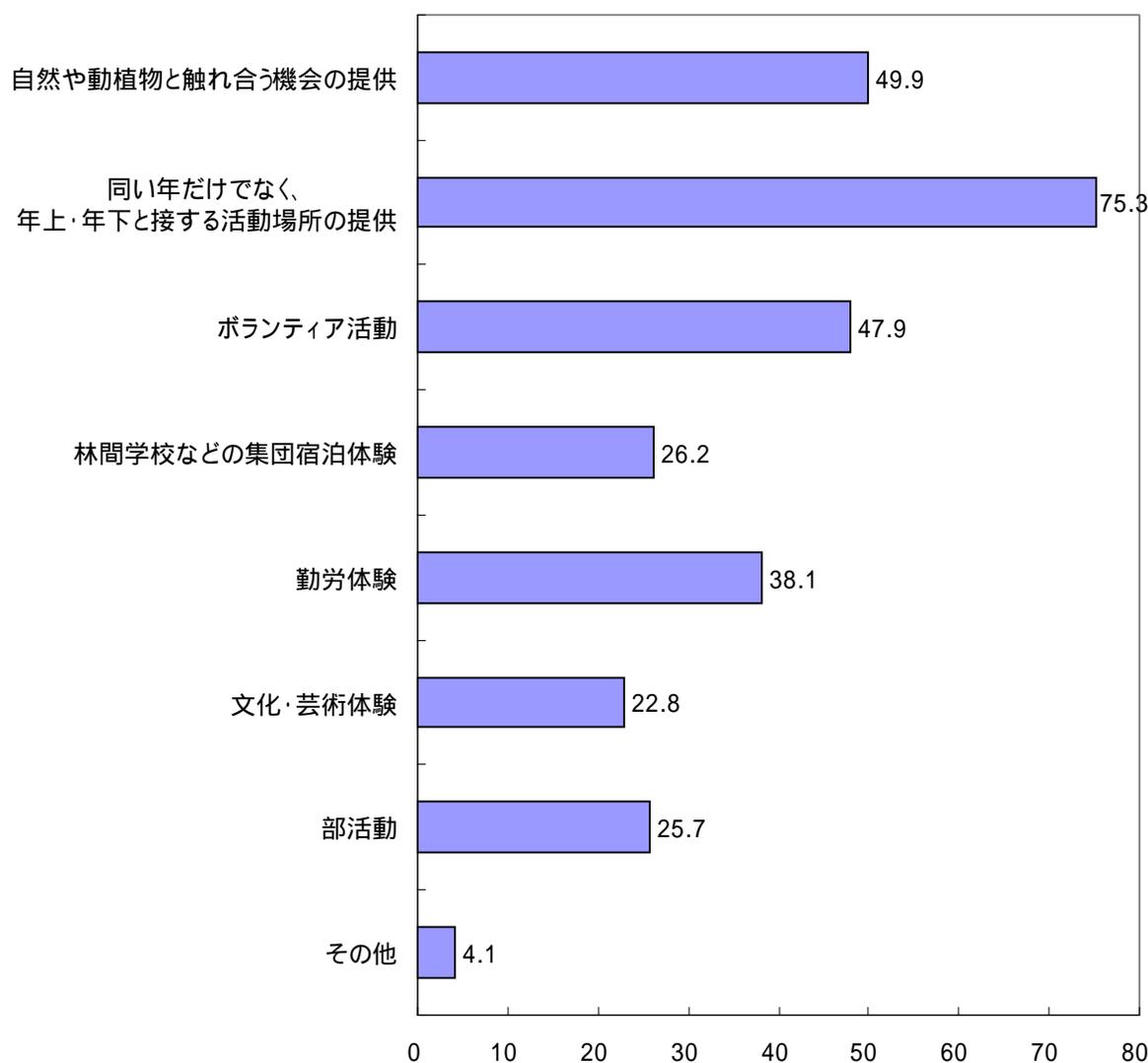
第1位は「**同じ年だけでなく、年上・年下と接する活動場所の提供**」

学校で人間性の形成のために充実・強化すべきことをたずねた。

「同じ年だけでなく、年上・年下と接する活動場所の提供」が第1位で75.3%であった。次いで「自然や動植物と触れ合う機会の提供」(49.9%)、「ボランティア活動」(47.9%)と続いた。

【全員に質問(有効回答数:3591名)】

(9) 今後、学校では人間性の形成のために特にどのようなことを充実・強化すべきだと思いますか。以下の中から3つまで選んで回答欄に記入してください。



【4】自由記述回答

～20歳代以下の意見～

昨今の子供をめぐる事件について

マスメディアからの情報の氾濫が原因で、幻想を抱いてしまうのではないのでしょうか。大人も躍らされすぎています。もっとテレビの中の空間でなく、隣人とのコミュニケーションを大事に過ごしていけば、他人を思いやる心が芽生えてくるのではないのでしょうか。

子供に関する事件を耳にして、他人事と思っていないだろうか。このような事件は身近に起こり得ることだ。自分たちもこのような社会を作ってしまった一員であることをよく頭に入れておくべきだろう。

20歳代の私の子供の時でも、近所のおじちゃん、おばちゃんが何かしら見守ってくれた。最近はそのような地域の目がなくなり、子供に孤独の影を感じる。犯罪や事件はその影がもたらすのではないだろうか。

やはり子供の教育は親の責任によるところが多いと思う。「親を市中云々」という過激な発言も聞かれたが、個人的にはその意見に賛成である。それぐらいの緊張感を持って子供と接して欲しい。

子供をめぐる事件の主因について

原因として考えられるのは、子供と大人の境界がなくなってきていることなのではないか。子供がまるで大人のように行動することが、こういった事件に巻き込まれる原因になっているのではないか。

事件を起こす子どもは、両親の育て方、もしくは環境に何かしら問題や足りないところがあるのではないかと考えています。まだ、親が親になりきれていないのかもしれませんが、また、コミュニケーションが少ないのも要因となっているのではないかと感じています。

大人への信頼感が失われている。日々、信用すべき大人たちの信頼感を失うニュースが流れている。社会全体のモラルが低下してきている。大人はもっと子供たちに尊敬されるような存在、人生の目標となるような存在でなければ、子供たちに希望は見えないと考える。

教育全般に関して

もうじき子供は3歳になります。自分の子供だけはこんな事をしないという安易な発想を抱かず、最低限のモラルを知った人間に育てていければ最高です。そのための努力を払って娘と接していきます。

私は現在教員をしています。学校だけで子供を育てることは難しいと実感しています。家庭での教育はもちろんのことですが、地域の風土が子供を育てる要素もあります。やはり、学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子供を育てることが重要だと考えます。

「叱ることのできない大人」が多いのは、大人自体が未熟だからなのかもしれない。もしくは「他人は知らない」といった風潮が社会に根付いているからかもしれない。子供を教育、形成してゆくうえで、「大人」の人格形成もしくは社会風潮の変化が重要である。

「最近の子供は・・・」と報道されるが、それに当てはまらない子供も勿論たくさんいる。私たちはメディアの価値観に左右される部分が多いので、流す側はもちろん、受け取る側の接し方も考えねばならないと思う。子供の問題を考える際、まず身近な所から子供たちに接し、生の情報を得ることが大事だと思う。

学校にいわゆる「しつけ」は期待できない。大学を出たての社会を知らない若者が「先生」と持ち上げられているし、事なかれ主義の場所なので。今思えば、学問の上では師として尊敬できても、人間として尊敬できる「先生」には多分出会っていない。大人ってあんなものだという反面教師は多かったが。

今とか昔とか関係なく、子供を育てる上で、守る、甘やかすなど、勘違いしている保護者が多いと思う。学習塾でアルバイトをしていた時に、様々な親子を見てきたが、育った環境とかお手本となる親の価値観などで差が出ると思った。

【4】自由記述回答

～30歳代の意見～

昨今の子供をめぐる事件について

「仕事が忙しいので、子供と過ごす時間がなかった」。これだけで、子供が悪くなるとは思えません。親自身の人格にも問題があるから、当然の結果として子供も悪くなるのではないのでしょうか。これだけマナーの悪い国になったのに、子供だけは立派に育てて欲しいと言うのは無理があります。大人の社会が健全さを取り戻せば、子供の世界も改善されるのではないかと思います。

まずは事実関係を確認することが大切。多発していると言うが、事件は本当に増加しているのか調べる必要がある。昔は凶悪犯罪はなかったと言われるが、昔もいろいろな事件は起きていた。万引き、暴走族などの事件が頻発していた。ただし、事件の性質が変化していると思う。例えば、集団事件が減り、個人事件が増えるなど。その変化を調べてから議論しなければいけない。感情的にならず、冷静な分析が必要だ。

子供が発育していく上で必要な過程が崩れてきているような気がします。虫を殺すということはある意味、大変残酷なことですが、生き物はどうすれば死んでしまうのかといったことや、殺してしまった時の気持ちなど、学ぶことも多い。こうした小さな生き物との接触などが驚くほど少なくなってしまう、何事もゲーム感覚になってしまっているのではないのでしょうか。

子供をめぐる事件の主因について

学校の教師に問題がある。わいせつな事件を起こしたり、過剰な体罰を加えたりといったことが跡を絶たない。そもそも教師になるのが簡単すぎる。自分もコントロールできないような人間が教師になる資格はない。

事件の要因は個別事情である。社会のせいとか、そういう十把一絡げに考えてしまうのはよくない。必ず個別事情がある。同じ社会で育ち、生活していても、犯罪を犯す人、そうでない人がいるのだから、『個』でとらえ、『個』で考えるのが肝要。違いを認めることが重要である。

教育全般に関して

「近頃の子供は我慢できない」という声をよく耳にするが、子供の本質は今も昔も同じ。我慢させない大人が増えただけだと思う。

私も核家族で育ったが、核家族化も行くところまで行きつつあり、今後は3世代の同居を見直すことがあっても良いと思う。そのための住宅面、経済面での支援策を考えるべきだ。また、同居が無理な場合でも、地域で多世代の交流ができる環境を作る必要があると思う。現在の若い親も含めて、地域の活動を通して人間形成すべきだ。

はっきり言って、学校ほどあてにならない場所はないと思います。勉強を教える（詰め込む）のは塾がすればよい。先生の質が随分と落ちている現状では、学校の意味がなくなっていると思います。教員の待遇を改善し、優秀な人材が集まってくるようにする。そして、それらの人材を徹底的に教育しなければ、学校自体が崩壊するしかないと考えます。

地域はもっと個人に対して積極的であっていいし、個人は単に「干渉」と疎むのではなく、干渉とアドバイスをうまく聞き分ける力を持つべきだ。そのためにも、地域社会は個人へのアドバイザーとしての能力を高めることが求められよう。

ゆとりの教育とか、心の教育などという言葉には、なんとなく偽善的なものを感じる。子供には建前や道徳だけでなく、人間の悪い面や汚い面も教えたり、体験させることが必要ではないか。良い子を作るだけが、教育や子育てではないと思う。

教育は重要だが、過大な期待をかけてはいけない。育てるのではなく、育つ機会を与えているだけである。育つ機会には教育だけではない。すべての大人は、自分が育ったのは教育だけのおかげかどうかをよく考えてみるといい。教育で育った部分もあるだろうが、他の要素で育ったのではないか。

【4】自由記述回答

～40歳代の意見～

昨今の子供をめぐる事件について

親を市中引き回しの刑にせよとの大臣意見がありました。亡くなった子供の親の立場からは、当然の意見でしょう。しかし、我が身を考えると、朝から晩まで会社勤務で、休日しか子供たちと接触できない日々が続いていたため、十分にスキンシップできたかと問われると、自信がありません。

これだけ子供をめぐる事件が多いのに、依然自分の子に限ってとっている親が多く、親自体に緊張感がないことを痛感する。

いつの時代にもあったことかもしれない。責任の取り方に問題がある。子供に責任を取らせる事ができないのであれば、親に取らせるべきだ。誰も責任を取らないのであれば、どうしようもない社会になる。

マスコミでの扱いを見ても、今まさに問題となっている子供たちの親が、どのような世代の人たちで、これまでどのような価値観の中で生きてきたかなどについては、あまり触れられていない。漠然とではあるが、「団塊の世代」との関わりが考えられるところである。こういった縦の視点と、現代の社会情勢という横の視点を重ね合わせて眺めてみると、見えてくるものがあるように思う。まずは問題の拡大を防ぐための対症療法的な施策も必要だが、社会病理という視点で多角的なアプローチをし、今の社会に欠けているもの、求められているものは何なのかを明らかにしていく作業が必要だと考える。

子供をめぐる事件の主因について

40年前の子供の遊びが可能な環境を作り出せる場があれば、事件などの発生は激減すると思います。いまの子供たちは体験や経験が乏しく、知識だけが詰め込まれている。これが子供をめぐる事件の最大の原因と考えている。

子供たちに地域住民の一人としての自覚を持たせるような教育ができていないと思う。大人であれ子供であれ、暮らしている場所は全て共同体の中である旨、教えることが必要だと思う。

教育全般に関して

先日、駅で見かけた中学受験で有名な塾の子供たち。一人は駅で買ったお菓子を食べる際、包装紙をホームに捨て、複数の子供は乗客が降りる前に乗り込み、席を確保しました。有名中・高・大と進み、社会の中核になる可能性のある子供たちでしょうが、これでは先が思いやられます。

自主性や創造性は、子供同士の遊びの中で育まれるものだと思う。多少の怪我やケンカがあっても、親は文句を言わずに、学校にそういう場と時間を設けてもらったほうが良いと思う。

子供を取り巻く諸問題の責任や問題を学校や家庭が押し付け合うのではなく、地域や家庭事情などで、相互にカバーし合う認識が必要なのは。また、地域（コミュニティ）はかつて全くシステムチックでなかったが、それでも子供の社会適応性や人間性の形成の面で、立派に機能していたと思う。今は大人自身が地域社会との関わりに消極的な点が問題。また、少子高齢化の進む中で、もっとお年寄りの存在がコミュニティにとって重要となるような社会になってほしいと思う。

私は旧帝大で学生指導する立場にあるが、基本的なルールが守れなかったり、少し厳しく注意するとすぐにふてくされたりする学生の割合が、最近多くなっているように感じる。わが国で最難関レベルの入学試験を通過してきた学生たちだが、年齢以上に子供じみているのが気掛かりである。高校までの人格形成段階での学校・家庭の対応について、考え直すことが必要だろう。

戦後の苦しい日本人の経験を全て「苦しいこと・悪いこと・わが子にはさせたくないこと」と一蹴するのではなく、自分たちが苦労して得た経験をそのままでなくとも、ひとつの経験項目として、過保護・放任とは別の取り組みとして考える社会を作りたい。

【4】自由記述回答

～50歳代の意見～

昨今の子供をめぐる事件について

殺傷事件や少女売春、さらにはイジメによる自殺などは、メディアが象徴的に取り上げる感があり、あたかも子供たち皆がその渦中にあるかの印象を受けます。しかし、そのほとんどの子供たちは、事件を想起させる要因と多少の接点はあるにせよ、眼前にある日々の課題を克服しながら、青年へと成長していると思います。ただ、個々に起きた痛ましいできごとの実行者（子供）に対しては、相応の罰則と矯正施策を講ずる必要があります。もちろん、それは学校などの役割ではなく、司法の機能を活用すべきです。

何か問題があればすぐに「社会や政治が悪い」などと他人のせいにする風潮があるように思う。基本的に家庭内での教育、育て方が一番重要である。親として、子供をきちんと育て上げているか、非常に疑問に思う親も多い。一時、高校のクラブ活動を指導したことがあるが、全て学校任せの親の態度に閉口することも多かった。

先生：最近遅刻する生徒が見られますので、早めに家を出るようお子さんに伝えて下さい。

親：親子関係が悪くなるので、そんな話は学校側をお願いします。

これは当時の高校教師から聞いた話。親の責任を放棄しているとしか考えられない。

子供をめぐる事件の主因について

商業主義・お金万能主義的な社会が子供を蝕んでいると思います。特にテレビ・ビデオ・映画・週刊誌・雑誌などメディアの責任は大きい。また、最近、政治家・企業経営者の一部で不祥事が多発しているが、社会的に制裁されず、無責任がまかり通る世界をさらけ出している。こういったことも原因のひとつだと思う。

その子自身が持っている長所短所を、丸ごと認めてあげることが大事。「良い子」像を大人が作り上げ、知らず知らず子供に当てはめようとしている傾向が強いように思う。

教育全般に関して

それぞれの家庭で両親が、子育てほど重要な仕事はこの世にはないという自覚を持つことが何よりも大切。企業が非効率な長時間労働を従業員に強いたり、サービス残業、有休休暇の未消化などを発生させた場合は、厳罰を設けるべきだ。

私は今、3人目の子供のため、中学校のPTA役員と親父の会の役員を務め、中学校の行事に参加したり、先生方や他の父兄とも話す機会が多い。そうすると、自然に娘とも共通の話題ができ、家庭の中での会話で浮き上がることもない。とかく学校での教育を批判する論調が目立つが、問題の根本は家庭、さらに言えば父親が子供の教育を放棄していることにあるのではないかと思う。

今の学校教育の中で、成績第一主義、偏差値教育をまず改める必要を感じます。背が高いことも、運動ができることも、優しいことも、美しいことも、器用なことも、成績がいいことも、機知に富んでいることも、動物を大切にすることも、みんな一人ひとり持って生まれた特技なのです。どれがすばらしくて、どれが価値がないなど誰が決めたのでしょうか。

20年ぐらい前は、近所にガキ大将がいた。その下に小さい子なりに付いて行きつつ、善悪、上下関係、弱いものをいたわる心を学んでいった。今は塾に追われて遊べない。大学に入ると、今まで我慢していたことを急にやって遊びまくる。これって逆じゃないか。成績至上主義でない部活や林間学校など、集団で楽しく生活する経験を増やしたら、自然に人間形成がなされると思う。

今、子供たちはとにかく忙しい。最近地域の子供たちと自然観察や野菜作りなどで関わりを持っていますが、「3時には帰る」など分刻みのスケジュールがあり、常に時間を気にしている。学校から帰ってカバンを置いて、暗くなるまで外で遊ぶのは、私の子供の頃の日課だが、思えばその中から得るこよは多く尊い。たっぷりあった時間を少し分けてあげたい。

【4】自由記述回答

～ 60歳代以上の意見～

昨今の子供をめぐる事件について

“多発”と言えるだろうか。極端な事件が続き、マスメディアが事件の本質を伝える努力をせず、単純に騒ぎ立てることが問題だと思う。極端な事件には必ず本質的な原因があると思われる。原因を分析し、学校や家庭での問題を冷静に反省する材料を社会に投げかけることが必要だ。一方、日常のニュース報道を注意深く見れば、「良く育っている子供たちがこんなに沢山いる」という事実も分かる。その背景には、どのような学校・家庭での教育があったのかを併せて報道する姿勢が必要だが、そのような事実は「ニュースバリュー」からスポイルされるのが実態だ。「報道の目的」をめぐる価値観があまりにもずれているマスメディアの体制を「構造改革」する必要があるのではないか。

このような事件は、今の社会が病んでいることの表れでしょう。戦後の個人主義的な考え方、競争に勝つことを至上とする風潮、経済的価値を優先する社会などの悪い面が、子供の非行という症状になったのだと考えます。一方的に教師が悪い、家庭が悪いと決めつけるのではなく、なぜこんな社会ができたのか、どうすればよいのかを考えなければならぬと思います。

子供をめぐる事件の主因について

いつの時代でも 社会に適合することが苦手な子供や、自己中心的な子は存在しました。何十年前前にはガキ大将がそんな子の面倒を見ていました。さらにその前は、町内の親分や頭と言われる人たちがそんな子供を引き受けて仲間に入れ、孤独や疎外された世界に入り込まないようにするシステムが社会全体にありました。

今の子供たちは物心ついた頃から、テレビで殺人事件のサスペンスや、下っ端のタレントをいじめて周囲が笑うバラエティ番組を見ているので、それが現実の自分の身の回りと同じこととすり込まれているのではないか。小生が中学生の頃は、映画で殺人シーンをまともに見ることはできなかった。

教育全般に関して

「15歳以下・低年齢の子供たち」を「一個の人間」として見るか、人間形成過程の「ひとつの動物」として見るかの相違点が、昨今の問題を発生させているのです。これは人間の本質を問う「性善説」か、「性悪説」にまで立ち至ることです。私は己を真摯に顧みる時、人は全て「性悪なるもの」と信じてやまないものです。

「ゆとり教育」について全く理解できない。「ゆとり」とは私のような定年退職者がいべき言葉で、子供たちは大いに学び、大いに知識を吸収し、また体験をして欲しい。

ヒントは宝塚音楽学校にあると思います。教養主義と人格主義、そして一定期間は絶対服従と、トップスターと言えども特権を与えない宝塚の平等主義が必要だと思います。

剣道、柔道、茶道、空手道と「道」がつく活動は、子供の豊かな人間形成を醸成する。「道」の奥行きは、自分に厳しく、他人への思いやりを考える広さがある。

私自身、時々、中学校から依頼を受けて環境教育や消費者教育などの出前講座を引き受けているが、実際に学校に出かけてみて、初めから話を聞く気のない生徒に出くわしたり、自閉症のようにゲームの仲間に加わらない子がいて、唾然とさせられることがある。先生も大変だなと思うが、先生自体がこの学習に加わらず、他人任せのような学校もあつたりして、先生の教育も必要ではないかと考えさせられる学校もある。

子供を相手にする仕事(学習指導)に関わって30年がたちます。子供の変化を強く感じています。というよりも、親の変化とも思えます。自己表現が積極的になってきたということはとっても良いことですが、一方で「相手の話を聞く」ことが、不得手のように感じます。そのような親の姿が、子供にも影響しているのではないのでしょうか。

「教育に関するアンケート」結果報告書

発行 / 財団法人 経済広報センター
担当 国内広報部 広聴グループ(山田)
〒100 - 0004 東京都千代田区大手町1 - 6 - 1 大手町ビル 7階
TEL:03 - 3201 - 1412 FAX:03 - 3201 - 1404
e-mail:kochonet@kkc.or.jp

発行日 / 2003年10月